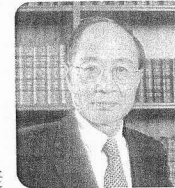




岡山県知事  
石井 正弘



会長  
明石 康

# 岡山県の取り組むべき国際貢献を考える

岡山県では、「新おokayama国際化推進プラン」(平成13年3月策定)及び「新世紀おokayama夢づくりプラン」(平成14年3月策定)に基づき、国際交流活動及び国際貢献活動に積極的に取り組んでまいりましたが、本年3月には、岡山発の国際貢献を考える会から「21世紀初頭における岡山県の取り組むべき国際貢献のあり方について」と題する報告書をいただきました。報告書には、私が提唱する「国際貢献先進県おokayama」の実現にとって大変明確な指針が示されており、ご提言いただいた趣旨を最大限尊重し、国際救援活動や環境、医療・福祉等の分野において、本県の特性やポテンシャルを生かした国際貢献施策を積極的に展開してまいりたいと考えております。

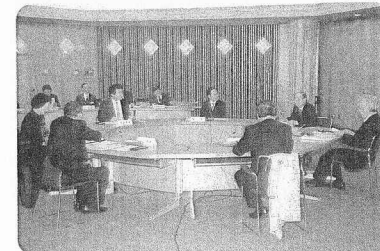
提言を具体化する第一弾として、過日、県内のNGO等が行う国際救援活動を支援するための「救援物資備蓄センター」を岡山空港内に開所し、現在、広く県内外の方々からの物資の提供をお願いしているところですが、今後とも、県民の皆様と「協働」で「国際貢献先進県おokayama」の実現に努めてまいりたいと存じますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



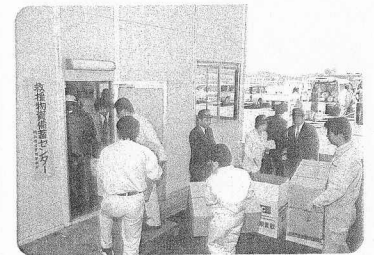
21世紀を迎えた世界は、社会の様々な分野でグローバル化が進む中、地球環境の保全や貧困の解消等地球規模の諸課題が深刻化してきています。

こうした諸課題の解決のためには、国家のレベル、即ち国家間の国際協力、関係国際機関における協力のみならず、地域のレベルにおいても、さらには個人のレベルにおいても、地球社会の一員として、地方公共団体、NGO、個人等が、自らの課題として、主体的に取り組み、国際協力を推進していく必要があります。

「岡山発の国際貢献を考える会」では、「国際貢献先進県おokayama」を目指して各種の国際貢献施策を進める上での基本方針となるべき岡山県の国際貢献のあり方について、検討を重ねてきました。本報告書は、4回にわたる会合での検討を踏まえ、21世紀初頭における岡山県の取り組むべき国際貢献のあり方についてまとめたものです。



岡山発の国際貢献を考える会



救援物資備蓄センター開所

## 岡山発の国際貢献を考える会委員名簿 (7名/委員は50音順/敬称略)

会長	明石 康	AKASHI, Yasushi	元国連事務次長 特定非営利活動法人日本紛争予防センター会長
会長代理	大原 謙一郎	OHARA, Ken-ichiro	財団法人大原美術館理事長
委員	有森 裕子	ARIMORI, Yuko	国連人口基金親善大使 特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド代表理事
委員	江橋 崇	EBASHI, Takashi	法政大学法学部教授 CDI-JAPAN (地域の国際協力推進会議) 代表
委員	川上 隆朗	KAWAKAMI, Takao	国際協力事業団総裁
委員	喜多嶋 美枝子	KITAJIMA, Mieko	岡山県公安委員会委員長
委員	菅波 茂	SUGANAMI, Shigeru	特定非営利活動法人AMDA理事長